

荻窪病院だより



外来での診療支援の様子。当院では医師事務作業補助者をMA(エムエー※2)と呼んでいます。

多忙な医師の仕事のうちの「事務部分」を 専門にサポートする医師事務作業補助者。 外来を中心に、多くの場で活躍しています。



当院での診療の際、医師のそばでカルテ入力をしたり、患者さんに検査の説明をしている事務スタッフは「医師事務作業補助者」といい、医師の指示の下、事務作業を代行する比較的新しい職種です。

医師事務作業補助者の導入で、医師はPC画面でなく患者さん向き合う時間が増え、かつ、多くの患者さんを診られるようになりました。今回は、患者さんにも身近な「医師事務作業補助者」の仕事についてお伝えします。

滞りがちな医師の書類作成…
患者さんに早く渡すには…?

医師は、診療や手術など直接患者さんと接する業務のほかに、カルテ記載や診断書・診療情報提供書の作成といった、事務作業も膨大に抱えています。

この部分を代行し、医師の業務負担の軽減を図ろうと生まれた職種が「医師事務作業補助者」で、当院はいち早く08年から導入しました。

「医師は目の前の患者さんが第一であり、書類作成などはつい後回しになりがちで、気がついたら「書類の山」ということも少なくありません。医師事務作業補助者という職種が、診断書を持つ患者さんのためになるのなら、と導入を検討しました」と当時を語る石井康宏副院長。まず5人の

スタッフで業務を開始しました。

医師が本来の仕事に集中できるように支援!

現在は30名を超える医師事務作業補助者が各外来での「診療支援」、病棟回診やカンファレンス時の「記録業務」、診断書等の「書類作成」を行っています(※1)。

特に外来ではカルテ記載や検査オーダーなどの代行入力、検査同意書類の発行・説明、さらに次回外来予約の日程調整など業務は多岐にわたり、患者さんやご家族とも多く接します。国家資格ではありませんが、医師の話を理解・共有できるような医学的な知識の蓄積は必須。32時間の基礎研修のほかに、院内外での研修を重ね、学会活動も積極的に進めています。

検査の同意書について、患者さんに説明するMA。



「発足当初は院長・副院長の指導の下、各部署の協力を得て手術室や検査室に入り、医療の実際を学びました。医師の診療につくことは緊張の連続ですが、医師事務作業補助者という仕事を介し、地域医療の貢献に携われるのは大変やりがいがあります。

職種の歴史は12年と浅いですが「医師事務作業補助者になりたい」とスタッフが当院に入職し、成長過程を共に歩めるのもやりがいのひとつです」と志村光代メディカルアシスタント室長。

※1 記録や書類は必ず医師が追記・修正・承認を行います

※2 MA メディカルアシスタント medical assistant の頭文字

医師事務作業補助者の導入で 外来がスムーズに

医師事務作業補助者が加わったことで大きく変わったのが、外来です。医師が行っていたカルテ記載や検査オーダーを医師事務作業補助者が代行することで、医師は患者さんと向き合う時間が増え、かつ、多くの患者さんを診られるように。医師が医師にしかできない仕事に集中できるようになったのです。

また、医師と多職種をつなぐスタッフとして、チーム医療の一員としての存在も光ります。外来では看護師とも業務分担することで、看護師がより専門性を発揮できるようになりました。

「医療の質」を上げる 医師事務作業補助者

今、医師事務作業補助者は、「医師の働き方改革」のキーパーソンとして注目を浴びています。当院医師の事務作業の多くは医師事務作業補助者にシフトされましたが「働き方改革関連法」施行で課題となっている【医師の残業時間の削減】につながったのでしょうか？



医師事務作業補助者・MAの

ある1日の業務

7:45 早朝カンファレンス

週1回、医師はじめ多職種が集まり入院患者さんの治療方針を検討・共有。MAはその内容をカルテ記載します。

8:30 診療準備開始

予約状況を確認し、まずは検査のために早く来ている患者さんをご案内。9時診療開始。カルテ記載、検査オーダー、患者さんと次回の来院予約調整…今日も忙しい1日に！

11:30 お昼休憩

まだ外来は忙しいため30分で交替。もう30分は午後。

12:00 診療継続

午後に伸びた外来を引き継ぎ、診療支援。午後外来も開始。

15:00 書類を代行作成

「入院手術証明書」や「紹介状の返書」などを代行作成。診断書だけでも、ひと月に約700件作成しています。

17:00 業務終了

明日の予約状況を確認して、業務終了。委員会活動や、院内外の研修に参加することもあります。

「データを見ると削減されたとは言えません。ここ数年で、患者さんや診療科が増えたこともあり。また、時間ができたら、次の患者さんに、手術に、研究に時間を費やす医師という性質も影響しているかもしれませんが、効果としての数字ははっきり出ていないのが現状です」と村井信二病院長。AI化も含めた構造的な業務改善が必要だと話します。

「ただ医師事務作業補助者導入の効果は、医師の残業時間の減少や加算収入(※3)だけで語ることはできません。優れたMAによるサポートは医師の力を十分に引き出し、またすべての職種にとつての潤滑油となっています。MAの存在が医療の質を上げ、病院運営にも大きな影響を及ぼしているのです」。

外来がスムーズに運ぶよう、速やかに書類が患者さんの手元に渡るよう、医師事務作業補助者はこれからも医師のそばに患者さんのそばで、安心・安全な医療に取り組みます。

※3 診療報酬として、医師事務作業補助体制加算(15対1)を取得



バレンタインらしいスイートな曲も流れた今回。ピアノの相馬ゆかりさんとの息もぴったり♪

バレンタイン・ウィークの週末、当院の7階レストランでジャズコンサートが開かれました。奏者のステイプ・サククスさんが当院の患者さんであった縁から、ボランティアで演奏いただいたているこのコンサート。入院患者さん始めご来場の方々には甘いひと時となりました。

ステイプ・サククスさん

2・15

バレンタイン・コンサートを
開催しました

荻窪病院は
地域医療に
貢献します

理念

患者さんへ安心で信頼される医療を提供します。
職員へやり甲斐のある仕事と豊かな生活の場を提供します。

基本方針

1. 急性期医療に全力で取り組み、地域社会に貢献します。
2. 個人の権利を尊重し、相互信頼に基づいた患者さん中心の医療を提供します。
3. 豊かな人間性と優れた技能を有する医療人の育成に努め、活力のある病院づくりをします。
4. 経営の健全化に努め、質の高い医療を地域に提供し続けます。